新規参入者の就農定着支援の取組

平成20年７月、関係機関と農家リーダー(就農支援アドバイザー)を構成員として、常陸大宮地域就農支援協議会を設立し、年2回支援会議を開催するほか、担い手に関する情報の共有化と総合的な支援活動を行っています。

特に、新規参入の方には、就農支援アドバイザーが就農前の住宅や農地探し、就農後のマンツーマンの技術指導など、地域になじむまできめ細かな支援活動を行っています。

常陸大宮地域就農支援協議会による支援

地元での就農相談会を随時開催しているほかに、県外など他地域からの新規参入者も積極的に受け入れていこうと「新・農業人フェア」等の地域外で開催される就農相談会等にも参加しています。

これまで、就農支援アドバイザーの適切な支援が実を結び、８名の方が就農しています。

就農相談会

研究会活動のひとこま

新規参入者の受入に積極的な奥久慈いちご研究会

奥久慈いちご研究会は、常陸大宮市から大子町のイチゴ農家14名で、技術交流や情報交換を行っています。新規参入者の会員は3名(うち1名農業経営士)となり、参入者が定着しやすい環境となっています。

先輩会員は若い会員を全面的にバックアップし、天敵導入技術交流や圃場巡回など協力し合って産地振興につなげています。

新規参入でこだわりの養鶏を開始

常陸大宮市と大子町に各１戸の新規養鶏農家が誕生しました。どちらも農業以外から転職しての新規参入です。

Ｍさん夫妻は、平飼い有精卵と有機野菜の生産・販売を、Ｉさんは奥久慈しゃもの生産販売に取り組んでいます。

人生の新しい一歩を当地域で踏み出した２経営体を、関係機関では暖かく支援していきます。

Ｍさん夫妻のホームページから